

やまもり通信 vol.95

寒い冬がやってきました。
Xmasにお正月・・・
いろいろ楽しい行事も目白押し。
今年はどんな年でしたか？
来年はどんな年にしたいですか？



【加子母の風景】左義長ではお正月飾りや古いお札、書き初めなどを焚きあげます。



やまもり
yamamori

こちら
彩都 やまもりです

【住所】箕面市彩都栗生南1-17-26
【お問合せ】彩都やまもり(TEL:072-739-6046)



やまもりHP



やまもりfacebook

「2025岐阜ふるさと祭り」盛況のうちに閉幕！

今年の岐阜ふるさと祭りは例年より少し遅い11/1(土)、2(日)の2日間で開催しました。

祭り当日は、前日の土砂降りだった天気が嘘のような青空に恵まれ、朝早くから多くの方が来場してくださいました。

今回も岐阜県各地から五平餅やみたらし、岩魚の塩焼きに飛騨牛コロッケなどのグルメ屋台は行列ができ、栗きんとんや岐阜コーラといった特産品ブースも大盛況。岐阜県の“みなも”をはじめ、高山市の“さるぼぼ”や下呂市の“げろぐる君”、大垣市の“おがっさい”などご当地ゆるキャラたちも勢ぞろいし、祭りを盛り上げてくれました。



【現在のギャラリー情報】2月以降のギャラリー内容は未定。決まり次第HPやfacebook等でご案内します。

『大阪樟蔭女子大学生書展』を開催します

【期間】12月4日(木)～12月10日(水)・・・3年生
12月11日(木)～12月17日(水)・・・2年生

岐阜ふるさと祭りでも書道パフォーマンスを披露してくれた大阪樟蔭女子大学で書道コースに在籍の2年生・3年生による作品展です。

『岐阜の冬の風物詩(仮称)』を紹介します

【期間】12月18日(金)～令和7年2月9日(月)(予定)

【イベント情報】

・年末恒例「ミニ門松づくり」

今年も早いものであと1か月。
毎年人気の『ミニ門松づくり』を今年も開催します。

●ミニ産直市 同時開催！

【日時】12月20日(土)
①9:30～10:30 ②11:00～12:00
③13:00～14:00 ④14:30～15:30

【会費】1800円

【定員】各回3組(1組1個)

【場所】彩都やまもり モデルハウス「加子母子屋」

【申込】12/5(金)から電話のみで受付開始
072-739-6046 彩都やまもりまで



・筆ペンアート教室“わたしのふでじかん”

2か月に1回開催している大山ゆい先生を講師に招いた筆ペンアートの体験教室です。

【日時】1月15日(木)10:00～12:00
※多数申込の場合は1月29日(木)にも開催予定

【会費】4000円(材料費・飲み物代含む)

※初参加の方に限り、フォトフレーム&文字見本付き

【定員】5名(要事前予約)

【場所】彩都やまもり モデルハウス「加子母子屋」

【申込】072-739-6046 彩都やまもりまで



加子母の人 山守日記 26 第84回 お金の話も

加子母の二代目御山守 内木彦七が残した『御山方御用并所持日記』から、江戸時代の加子母生活を紹介しています。今回は、「尾張藩の林政と森林文化9 人・物・お金にみる山村の暮らしー江戸時代のかしも生活④」からご紹介します。

●山村は、実は開放的？

江戸時代加子母村は、美濃国・飛騨国・信濃国の国境が接する三国山の東南部、村の大半は森林という山奥でした。自給自足の暮らし、人の往来が少なく閉鎖的というイメージを持ちそうですが、加子母村は陸の孤島だったかというとは実はそうではありませんでした。村内を流れる加子母川の谷間を中山道落合宿と飛騨下呂宿を結ぶ間道が通っていて、村落はこの道筋に沿ってありました。彦七の日記には、さまざまな人々が村を出入りしてたくさんのお金が行き交っていた様子が書かれています。江戸時代の山村、実は開放的で外に開かれていたようです。

●江戸時代の貨幣事情

金・銀・銭の3種類の貨幣がありました。金貨には時代劇でお馴染みの小判（1両）の他にも何種類がありました。ちなみに1両で1人が1年間で食べる米1石（約150キロ）買えました。銀貨は重さによって価値が決まるので天秤で量りながら使いました。庶民が一番使ったのは銅で作られた銭貨で1枚1文（約20円〜80円位）でした。支払いや運搬を便利にするため銭貨を麻や藁の



紐を穴に通して棒状にまとめたりしていました。

●預かったり両替したり

安永3年3月、旅商人の喜与十郎が彦七家へやってきました。「銭式分荷物重ク候預り呉」と頼んできたので彦七は「式六百文」預かりました。喜与十郎が預けた「式×六百文」がもし全部一文銭だとすると、なんと10キロ弱になります。これを持って行商するにはさぞかし大変だったでしょうね。

翌々日に喜与十郎が銭を取りにいくと、今度は彦七が「銭吉分分」を小判で買いたいと両替を頼みました。小判では金額が大きすぎて日常では使いにくかったようので、銭貨への両替が多くありました。お互い信頼関係ができてたんですね。

参考文献：『人物お金にみる山村の暮らしー江戸時代の暮らし生活』④ 仲泉剛・林幸太郎著 徳川林政史研究所発行

山ロープウェイで岐阜城へ登ったり、今年オープンした岐阜城楽市で昼食休憩。



今回の最後の訪問地は（株）岐阜造園造園専業としては日本唯一の上場企業として注目されている企業です。舟橋恵一取締役が2030年に向けた成長戦略や最近の大型プロジェクトの施工例をスライドを交えて紹介し、景観産業＋環境保全の「環境創造企業」を目指していることを力強く語られました。

これですべての旅程をクリアして予定通り無事大阪梅田に帰ってきました。皆さんお疲れさまでした。



その後夫婦滝などを見学して昼食会場の「川口やな」へ。揖斐川の渓谷清流を眺めながら鮎のフルコースを堪能。大野町のばら公園を経て、日本最大級の広さを誇り、約300種類、50万本のサボテンを栽培しているという瑞穂市のサボテン村へ。羽島市の竹鼻 別院を見学して本日の宿泊地、長良川温泉ホテルパークへ。宴会では地元の食材での会席料理とカラオケを楽しみました。

翌日はまず関市の円空記念館へ。係員の丁寧な説明で円空の人柄、生涯などを勉強しました。その後正法寺の日本三大仏、岐阜大仏殿を見学。像高が13メートル強、その大きさに圧倒されました。岐阜公園で自由行動。金華



本間希代子 絵描き・イラストレーター 名古屋生まれ。岐阜の山村 加子母に移住して28年目。古楽器奏者でチンバロ制作者の夫と娘と日々バタバタと加子母ライフを楽しんでいます。

アトリエ手箱 <http://tebako.jp>

関西発会活動けいじ板

法人部会定期懇親会開催

6月の総会で承認された新体制による大阪岐阜県人会法人部会の定期懇親会を8月4日（月）大阪梅田の中華ハービスエント店で17人の参加で開催しました。暑気払いを兼ねた懇親会という事でもあり、かたぐるしい挨拶等は後回しで、まずはキンキンに冷えた生ビールで乾杯してスタート。

新任の岩崎雅明大阪県人会会長、宮崎誠司同法人部会長からは今後の取り組みなどの挨拶があり、参加者全員が近況報告をして交流、懇親を深めました。

徳田昭憲会長代行からは「今、県人会は個人会員の高齢化に伴い、法人会員が中核的な存在になってきている。今般タッグを組んだ岩崎、宮崎両会長には新しい発想・企画で県人会を牽引して欲しい、大いに期待しています」とエールを送りました。



宮崎誠司法人部会長



連合会徳田昭憲会長代行



大阪県人会岩崎雅明会長

ふるさと紀行を催行

恒例のふるさと紀行を9月9日（火）〜10日（水）1泊2日の日程で催行しました。

今回の行先は西濃地区から岐阜で、普段あまり行っていない、穴場、的名所の訪問です。

最初の目的地は国歌「君が代」に出てくる「さざれ石公園」。揖斐川町春日の奥地にあるため、公園が近づくにつれ道が狭くなり、バスで行けるとこまで行ったら後は勾配のきつい細い坂